

## 朱德熙（1982）の動目構造の意味分析

### A Study of Class Meaning of the V-O Construction in Zhu (1982)

青 木 萌

#### 0. はじめに

本稿は形式意味論の観点から、朱德熙（1982）が著した《语法讲义》の8.1（110-111頁）における記述を考察する。主として、動目構造の例文を論理式で表記し、各例に含まれている意味を厳密に解析する。

動目構造について、まず朱德熙（1982：110）は次のように述べた。（本稿の中国語に対する日本語訳はすべて筆者による）

「在正常的情况下，主语一定在谓语前头，宾语一定在述语后头。主语和谓语之间的关系松弛，中间可以有停顿（7.1.1）；述语和宾语意义上和结构上的联系都很紧密，当中没有停顿。」（通常，主語は必ず述語の前にあり，目的語は動語<sup>(1)</sup>の後ろにある。主語と述語の間の関係は緩く，間に停頓が置かれてもよい（7.1.1参照）。動語と目的語の意味上および構造上の関係は緊密であり，間に停頓が置かれることはない。）

そして、朱德熙（1982：110）はさらに、

「主语是对谓语说的，宾语是对述语说的，主语和宾语没有直接的联系。从表面上看，“张老师教地理”里的动词“教”一头牵着主语，另一个牵着宾语，好像二者同在一个平面上。其实主语“张老师”是和谓语“教地理”发生联系的，宾语“地理”则是和述语“教”发生联系的。宾语前头必须有述语，可是不一定有主语，例如“教地里的张老师来了”。（主語は述語に対して述べられ，目的語は動語に対して述べられる。主語と目的語は直接的な関係はない。たとえば“张老师教地理”（張先生は地理を教える）における動詞“教”は主語と結びつき，一方で目的語と結びついており，主語と目的語は一つの平面にあるように思えるが，実際には，主語の“张老师”は述語の“教地理”と関係を有し，目的語の“地理”は動語の“教”と関係を有している。目的語の前には必ず動語があるが，述語の前には必ずしも主語があるとは限らない。たとえば“教地里的张老师来了”（地理を教える張先生が来た。））

と述べた。上述の如く，“张老师教地理”について朱德熙（1982：110）は「主語の“张老师”は述語の“教地理”と関係し，目的語の“地理”は動語の“教”と関係している」と述べているが，これは論理式<sup>(2)</sup>を用いて形式的に表現することができる。(1)を見られたい。

- (1)                    教エル    ～ガ    ～ヲ  
                          有' {张老师, 教' (张老师, 地理)}  
                          持ッ    ～ガ                    ～ヲ

上の式の読みは「張先生という話題 (topic)<sup>(3)</sup>が，張先生が地理を教える，という状態を持つ」となる。以下，この式の内部について説明する。この式の中の“有' {张老师, ……}”は「張先生という話

題が、～という状態を持つ」という意味を表している<sup>(4)</sup>。“教’(张老师, 地理)”は「張先生が地理を教える」という意味を表している。つまり、主語の“张老师”は、(1)の論理式の“有’{张老师, ……}”における“张老师”である。そして、述語の“教地理”は、“教’(张老师, 地理)”である。そして、動語の“教”は、“教’(张老师, 地理)”における“教”で、目的語の“地理”は、“教’(张老师, 地理)”における“地理”である。

以上により「主語の“张老师”は述語の“教地理”と関係し、目的語の“地理”は動語の“教”と関係している」といったことを厳密に分析することができた。

次に“教地理的张老师来了”の論理式について考えてみよう。これは、

(2) 来了’ (教地理的张老师)

来タ ～ガ

と書いて、この論理式は「地理を教える張先生が来た」という意味を表していると考えられるが、より詳細に、

(3) 教エル～ガ～ヲ 来ル ～ガ  
 有’《的’{教’(φ, 地理), 张老师}, 有’【来’[的’{教’(φ, 地理), 张老师}], 了】》  
 持ツ ～ガ ～ヲ  
 スル ～ガ ～ヲ  
 持ツ ～ガ ～ヲ

と書くことができる。“有’《的’{教’(φ, 地理), 张老师}, ……》”は「地理を教える張先生という話題が、～という状態にある」という意味を表し<sup>(5)</sup>，“教’(φ, 地理)”は「誰かが地理を教える」という意味を表し，“的’{教’(φ, 地理), 张老师}”は「誰かが地理を教えるが張先生を下位分類する」という意味を表し，“来’[的’{教’(φ, 地理), 张老师}]”は「地理を教える張先生が来る」という意味を表し，“有’【来’[的’{教’(φ, 地理), 张老师}], 了】”の部分は「地理を教える張先生が来るが[発生]という様態を持つ」という意を表している。

次章では動目構造を六種類に区分し、各用例に含まれている意味について詳述する。

## 1. 動語と目的語の意味関係について

朱德熙(1982: 110)は、

「述語和宾语之间意义上的联系是各种各样的。」(動語と目的語の間の意味的な関係はさまざまである。)

と述べ、動目構造を以下の六つに分け、用例を挙げた。

- ① 宾语是动作的受事 (目的語が受け手であるもの)
  - (4) 擦玻璃 (ガラスを拭く)
  - (5) 吃苹果 (リンゴを食べる)
- ② 宾语是动作的施事 (目的語が動作主であるもの)
  - (6) 来客人 (了) (客が来る (た))
  - (7) 住人 (人が住む)
- ③ 宾语是动作凭借的工具 (目的語が動作行為の抛り所となる道具であるもの)
  - (8) 洗冷水 (冷水で洗う)
  - (9) 抽烟斗 (パイプで吸う)
- ④ 宾语是动作产生的结果 (目的語が動作行為の生み出す結果であるもの)
  - (10) 盖房子 (家を建てる)

- (11) 写信 (手紙を書く)
- ⑤ 宾语是运动的终点 (目的語が動作行為の終点であるもの)
- (12) 上广州 (広州へ向かう)
- (13) 进医院 (病院に入る)
- ⑥ 宾语表示动作延续的时间 (目的語が動作行為の持続時間を表すもの)
- (14) 住三天 (三日間泊る)
- (15) 等一会儿 (少し待つ)

以下、上の六種類の動目構造について詳しく検討してみたい。

まず、①の「宾语是动作的受事 (目的語が受け手であるもの)」では「擦玻璃」と「吃苹果」という例が挙げられている。「擦玻璃」では「玻璃」が受け手であり、「吃苹果」では「苹果」が受け手である。

②の「宾语是动作的施事 (目的語が動作主であるもの)」では「来客人 (了)」と「住人」という例があるが、「来客人 (了)」では「客人」が動作主であり、「住人」では「人」が動作主である。

③の「宾语是动作凭借的工具 (目的語が動作行為の拠り所となる道具であるもの)」について言うと、「洗冷水」と「抽烟斗」という例があり、「洗冷水」では「冷水」が動作行為の拠り所となる道具で、「抽烟斗」では「烟斗」が動作行為の拠り所となる道具であると見なしえるので、「洗冷水」は、「誰かが何かを洗う」は「冷水を用いる」という様態にあると考えることができる。同様に、「抽烟斗」は、「誰かが何かを吸う」は「パイプを用いる」という様態にある、と考えることができる。

④の「宾语是动作产生的结果 (目的語が動作行為の生み出す結果であるもの)」においては、「盖房子」と「写信」という例があるが、「盖房子」では「房子」が、「写信」では「信」が動作行為の生み出す結果である。そのため「盖房子」は「誰かが何かを建てる」が「その何かの家という対象を持つ」と解釈し、「写信」は「誰かが何かを書く」が「その何かの手紙という対象を持つ」と解釈できる。

そして、⑤の「宾语是运动的终点 (目的語が動作行為の終点であるもの)」に当てはまる「上广州」と「进医院」について述べると、「上广州」では「广州」が動作行為の終点であり、「进医院」では「医院」が動作行為の終点である。従って、「上广州」は「誰かが行く」という行為が行われ、そして「その誰かが広州へ到る」と解釈できる。また、「进医院」は「誰かが入る」という行為が行われ、そして「その誰かが病院へ到る」と解しうる。

最後に⑥の「宾语表示动作延续的时间 (目的語が動作行為の持続時間を表すもの)」における用例を見てみると、「住三天」と「等一会儿」という例があるが、「住三天」では「三天」が持続動詞「住」の持続時間を表し、「等一会儿」では「一会儿」が持続動詞「等」の持続時間を表している。よって「住三天」について考えると、「誰かが泊る」という行為が行われ、かつ「それが三日という時間量を持つ」と理解できる。これに倣い、「等一会儿」は「誰かが待つ」という行為が行われ、かつ「それが少しという時間量を持つ」と見なしえる。

では、以上の考察を基に、以下、上の十二個の例を順に論理式によって解析してみたい。

### 1.1 “擦玻璃”の論理式

“擦玻璃”を論理式で表記すると次のようになる。

- (16) 擦' ( $\phi$ , 玻璃)  
拭ク〜ガ〜ヲ

この式は「誰かがガラスを拭く」という意を表しており、この式の中の“玻璃”が受け手であることが分かる。



パイプを用いる」という意を表し、この“烟斗”が動作行為の拠り所となる道具である。

### 1.7 “盖房子”の論理式

“盖房子”を論理表記すると次のようになる。

$$(22) \text{ 盖}'(\phi, \psi) \ \& \ \text{有}'(\psi, \text{房子}) \\ \text{建テル} \sim \text{ガ} \sim \text{ヲ} \ \text{持ツ} \sim \text{ガ} \sim \text{ヲ}$$

この式の読みは「誰かが何かを建て、かつ、その何かの家という対象を持つ」となる。“盖’( $\phi$ ,  $\psi$ )”は「誰かが何かを建て」という意味を表している。そして、その横の“有’( $\psi$ , 房子)”は「何かの家という対象を持つ」という意を表し、これが動作行為の生み出す結果を意味している。

### 1.8 “写信”の論理式

“写信”の論理式は、

$$(23) \text{ 写}'(\phi, \psi) \ \& \ \text{有}'(\psi, \text{信}) \\ \text{書ク} \sim \text{ガ} \sim \text{ヲ} \ \text{持ツ} \sim \text{ガ} \sim \text{ヲ}$$

となる。上の式を読むと、「誰かが何かを書き、かつ、その何かの手紙という対象を持つ」となる。“写’( $\phi$ ,  $\psi$ )”の部分は「誰かが何かを書く」という意を示している。そして“有’( $\psi$ , 信)”の部分は「何かの手紙という対象を持つ」という意を示し、これが動作行為の生み出す結果を意味している。

### 1.9 “上广州”の論理式

“上广州”の論理式は以下のようになる。

$$(24) \text{ 上}'(\phi) \ \& \ \text{到}'(\phi, \text{广州}) \\ \text{向カウ} \sim \text{ガ} \ \text{到ル} \sim \text{ガ} \ \sim \text{ニ}$$

上記の式は「誰かが向かい、かつ、その誰かが広州に到る」と読むことが可能である。“上’( $\phi$ )”の箇所は「誰かが向かう」という意味を表し、“到’( $\phi$ , 广州)”の箇所は「誰かが広州に到る」という意を表している。注目すべきは、この“到’( $\phi$ , 广州)”の“广州”が動作行為の終点である、ということである。

### 1.10 “进医院”の論理式

“进医院”を論理式で表記すると次の(25)のように解析できる。

$$(25) \text{ 进}'(\phi) \ \& \ \text{到}'(\phi, \text{医院}) \\ \text{入ル} \sim \text{ガ} \ \text{到ル} \ \sim \text{ガ} \ \sim \text{ニ}$$

上記の式の読みは「誰かが入り、かつ、その誰かが病院に到る」である。“进’( $\phi$ )”の部分は「誰が入る」という意味を表している。そして“到’( $\phi$ , 医院)”は「誰かが病院に到る」という意を表し、この中の“医院”が動作行為の終点である。

### 1.11 “住三天”の論理式

“住三天”を論理式で表現すると、

$$(26) \text{ 住}'(\phi) \ \& \ \text{有}'\{\text{住}'(\phi), \text{三天}\} \\ \text{泊ル} \sim \text{ガ} \ \text{持ツ} \ \sim \text{ガ} \ \sim \text{ヲ}$$

と書ける。この式は「誰かが泊り、かつ、それ(誰かが泊る)が三日という時間量を持つ」と読むことができる。“住’( $\phi$ )”の部分は「誰かが泊る」という意味を表している。そして、“有’{住’( $\phi$ ), 三天}”は「誰かが泊るが三日という時間量を持つ」という意を表し、この部分の“三天”が動作行為

の持続時間を示している。

### 1.12 “等一会儿”の論理式

“等一会儿”の論理式は、

$$(27) \text{ 等' } (\phi, \psi) \ \& \ \text{有' } \{\text{等' } (\phi, \psi), \text{ 一会儿}\} \\ \text{待ツ} \sim \text{ガ} \sim \text{ヲ} \quad \text{持ツ} \quad \sim \text{ガ} \quad \sim \text{ヲ}$$

といった表記が適切である。この式は「誰かが何かを待ち、かつ、それ（誰かが何かを待つ）が少しという時間量を持つ」と読むことが可能である。“等' ( $\phi, \psi$ )”は「誰かが待つ」という意味を示し、“有' {等' ( $\phi, \psi$ ), 一会儿}”は「誰かが待つが少しという時間量を持つ」という意を示している。見逃してはならないことは、この“有' {等' ( $\phi, \psi$ ), 一会儿}”における“一会儿”が動作行為の持続時間を表している、という点である。

さて、次の第二章では、[使役]の意を表す“晒太阳”と“跑马”について論じる。

## 2. [使役]の意を表す“晒太阳”，“跑马”について

はじめに朱德熙（1982：110）の記述を見られたい。

「有的动词充任述语时表示使动意义，例如“晒太阳”是让太阳晒，“跑马”是使马跑。」（ある動詞は動語を担う時、使役の意味を表す。たとえば“晒太阳”は「太陽に照らさせる」の意であり、“跑马”は「馬を走らせる」の意である。）

ここで注目に値することは、朱德熙（1982：110）が、“晒太阳”に対して、“让”を用いて“让太阳晒”と解釈し、“跑马”に対して、“使”を用いて“使马跑”と解釈していることである。では、“晒太阳”と“跑马”を論理式で表すと如何なる表記となるであろうか。以下それを考える。

### 2.1 “晒太阳”の論理式

“晒太阳”を論理表記すると次のようになる。

$$(28) \quad \text{サセル} \sim \text{ガ} \sim \text{ニ} \quad \text{照ラス} \sim \text{ガ} \sim \text{ヲ} \\ \text{让' } \{\phi, \text{ 太阳}, \text{ 让' } (\phi, \text{ 太阳}) \ \& \ \text{晒' } (\text{太阳}, \psi)\} \\ \text{スル} \quad \sim \text{ガ} \sim \text{ニ} \quad \sim \text{ヲ}$$

この式の全体の読みとしては、「誰かという話題が、太陽という副話題 (subtopic)<sup>(6)</sup>に、誰かが太陽にさせ、かつ、その太陽が何かを照らす、ということをする」となる。“让' { $\phi$ , 太阳, ……}”の部分は「誰かという話題が、太陽という副話題に、～ということをする」という意味を表している。そして、“让' ( $\phi$ , 太阳)”の部分は「誰かが太陽にさせる」という意味を表し、“晒' (太陽,  $\psi$ )”の部分は「太陽が何かを照らす」という意を表している。

### 2.2 “跑马”の論理式

“跑马”を論理式で表記すると次のようになる。

$$(29) \quad \text{サセル} \sim \text{ガ} \sim \text{ニ} \quad \text{走ル} \sim \text{ガ} \\ \text{使' } \{\phi, \text{ 马}, \text{ 使' } (\phi, \text{ 马}) \ \& \ \text{跑' } (\text{马})\} \\ \text{スル} \quad \sim \text{ガ} \sim \text{ニ} \quad \sim \text{ヲ}$$

上の式は「誰かという話題が、馬という副話題に、誰かが馬に命令し、かつ、その馬が走る、ということをする」と読むことができる。“使' { $\phi$ , 马, ……}”の部分は「誰かという話題が、馬という副話題に、～ということをする」という意味を表し、“使' ( $\phi$ , 马)”の部分は「誰かが馬にさせる」と

いう意味を表し，“跑’（马）”の部分は「馬が走る」という意を表している。

次章では動語が形容詞である場合について考えてみたい。

### 3. 動語が形容詞である場合

まず、朱德熙（1982：110-111）の記述とそれに対する翻訳を見られたい。

「及物动词作定语，能带真宾语，也能带准宾语；不及物动词和形容词作定语，只能带准宾语，不能带真宾语。有些形容词能带真宾语（巩固国防，严格手续），应看成兼属形容词和及物动词两类。

(5.1.2)」(他動詞が動語である場合、真性目的語<sup>(7)</sup>を伴うことができ、また仮性目的語<sup>(8)</sup>を伴うこともできる。自動詞、形容詞が動語となる場合、仮性目的語だけを伴うことができ、真性目的語を伴うことはできない。しかし、いくつかの形容詞は真性目的語を伴うこともできる(たとえば“巩固国防”(国防を強化する)、“严格手续”(手続きを厳しくする))。故に、これらは形容詞と他動詞の両方の類に属すと見なすべきである。(5.1.2参照))

では、上の“巩固国防”と“严格手续”を論理表記してみよう。

#### 3.1 “巩固国防”の論理式

“巩固国防”を論理式で表記すると、

- (30) 巩固’ (φ, 国防)  
強化スル〜ガ〜ヲ

と書ける。この式は「誰かが国防を強化する」という意味を表している。

#### 3.2 “严格手续”の論理式

“严格手续”を論理式で表すと、

- (31) 严格’ (φ, 手续)  
厳シクスル〜ガ〜ヲ

となる。(31)の論理式は「誰かが手続きを厳しくする」という意を表している。

次の第四章では動語が動補構造である場合について論じる。

### 4. 動語が動補構造である場合

朱德熙（1982：111）は次のように述べた。

「除了及物动词以外，许多粘合式述补结构（即不带“得”字的述补结构，如：写完，打碎，拿出，送回，看9.2）也能带真宾语。」(他動詞以外に、多くの粘着型動補構造<sup>(9)</sup>(即ち“得”を伴わない動補構造。たとえば“写完”(書き終える)、“打碎”(打ち砕く)、“拿出”(持ち出す)、“送回”(送り返す)など。9.2参照。)も真性目的語を伴うことができる。)

ただ、朱德熙（1982：111）では、上の“写完”、“打碎”、“拿出”、“送回”が生起した文の実例を挙げていないので、以下、それらが実際に小説やテレビドラマの中で用いられていることを確認し、朱德熙（1982：111）の補足としたい。

- (32) 十二月十一日写完全篇，约十一万字，是为《火葬》。(老舍《老舍全集第三卷》(火葬(序)) 326頁)

- (33) 依我的经验来说呢，她一定会挨批，本来打碎一个花瓶不是什么大事，可是呢，她认识错误的态度不对，你看，一声对不起就完了，太不深刻！（テレビドラマ《家有儿女第一部》第47話）

(34) 无数“素材”又一次雪片似地飞来，虽已非“事出有因，查无实据”，但无奈内容质量大都平平，无论怎样拔高，也难冠以“英模”二字。但看到别的分场都纷纷拿出材料往总场报去，我们不由有些着急。(海岩《死于青春》121-122頁)

(35) 周六我爸出院，我想把他送回老家修养，不知道你有没有空？(テレビドラマ《欢乐颂》第35話)

以下、上の(32)-(35)の下線の部分(“写完全篇”(全篇を書き終える)、“打碎一个花瓶”(花瓶を叩き割る)、“拿出材料”(資料を持ち出す)、“送回老家”(実家へ送りかえす))及びそれらと直接関係すると思われる部分を、順番に論理式で表記する。

#### 4.1 “写完全篇”の論理式

(36) 写'(我, 全篇) & 有' [写'(我, 全篇), 完]  
書ク～ガ～ヲ 持ツ ～ガ ～ヲ

この式は「私が全篇を書き、かつ、それ(私が全篇を書く)が完成という結果を持つ」といった読みが適切である。“写'(我, 全篇)”の部分は「私が全篇を書く」という意味を表し、“有'[写'(我, 全篇), 完]”の部分は「私が全篇を書くが完成という結果を持つ」という意を表している。なお、“全篇”の部分をより厳密に表記すると、

(37) 写'(我, 篇) & 有'(篇, 全) & 有'(全, 完)  
書ク～ガ～ヲ 持ツ～ガ～ヲ 持ツ～ガ～ヲ

といった式を書くことができる。この式は「私が一篇を書き、かつ、その一篇が全てという量を持ち、かつ、その全てが完成という結果を持つ」と読める。つまり“写'(我, 篇)”は「私が一篇を書く」という意味を、“有'(篇, 全)”は「一篇が全てという量を持つ」という意味を、“有'(全, 完)”は「全てが完成という結果を持つ」という意を表している。

#### 4.2 “打碎一个花瓶”の論理式

(38) 打'(她, 一个花瓶) & 碎'(一个花瓶)  
叩ク ～ガ ～ヲ 割レル ～ガ

この論理式は「彼女が一つの花瓶を叩き、かつ、その一つの花瓶が割れる」という読みが考えられる。“打'(她, 一个花瓶)”の部分は「彼女が一つの花瓶を叩く」という意味を表し、“碎'(一个花瓶)”の部分は「一つの花瓶が割れる」という意を表している。

なお、“一个花瓶”の部分をより詳しく論理表記すると、以下の(39)のように解析しえる。

(39) 打'(她, 花瓶) & 有'(花瓶, 一个) & 碎'(一个)  
叩ク ～ガ ～ヲ 持ツ ～ガ ～ヲ 割レル ～ガ

この論理式は「彼女が花瓶を叩き、かつ、その花瓶が一つという量を持ち、かつ、その一つが割れる」という意を表しており、“打'(她, 花瓶)”の部分が「彼女が花瓶を叩く」という意を、“有'(花瓶, 一个)”の部分が「花瓶が一つという量を持つ」という意を、そして“碎'(一个)”の部分が「一つが割れる」という意味を表している。

#### 4.3 “拿出材料”の論理式

(40) 拿'(别的分场, 材料) & 出'(材料)  
持ツ ～ガ ～ヲ 出ル ～ガ

上の論理式は、「他の組が資料を持ち、かつ、その資料が出るという方向を持つ」といった読みが妥当である。“拿'(别的分场, 材料)”の部分は「他の組が資料を持つ」という意味を表し、“出'(材



料)”の部分には「資料が出る」という意を表している。

また、この“別的分場”の部分に厳密に論理表記すると以下のような式を考えることもできる。

- (41) スル ~ガ ~ヲ 出ル ~ガ  
 拿' 的' (別, 分場), 材料 & 出' (材料)  
 持ッ ~ガ ~ヲ

上の論理式は「他の組が資料を持ち、かつ、その資料が出るという方向を持つ」と読める。以下この式に含まれている命題を一つずつ確認すると、まず“的' (別, 分場)”は「他が組を下位分類する」という意味を表し、次に“拿' 的' (別, 分場), 材料|”は「他の組が資料を持つ」という意味を表し、そして“出' (材料)”の部分には「資料が出る」という意を表している。

#### 4.4 “送回老家”の論理式

- (42) 送' (我, 我爸) & 回' (我爸, 老家)  
 送ル ~ガ~ヲ 戻ル ~ガ~ニ

この論理式の読みは「私が私の父を送り、かつ、その私の父が実家に帰る」である。“送' (我, 我爸)”の部分には「私が私の父を送る」という意味を表し、“回' (我爸, 老家)”の部分には「私の父が実家に帰る」という意を表している。

## 5. 結びにかえて

本稿は形式意味論の観点から、朱徳熙 (1982) が著した《语法讲义》の 8.1 (110-111 頁) における記述を考察した。主として、動目構造が生起する例文を論理式で表記し、各例に含まれている意味を厳密に解析した。

### 注釈

- (1) 原文の“述語”を「動語」と訳したが、これは朱徳熙 (1982) の訳本である杉村, 木村 (1995: 143) に従った。杉村, 木村 (1995: 10) によると、「動語」とは「目的語あるいは補語を伴った動詞・形容詞の文法成分としての名称」である。
- (2) 本稿の論理式における括弧は“( )”, “{ }”, “[ ]”, “【 】”, “《 》”の五つを使用し,“( )”が最も作用域 (scope) が狭く,“《 》”が最も作用域が広いと仮定する。即ち,“( )”は“{ }”より作用域が狭く,“{ }”は “[ ]”より作用域が狭く, “[ ]”は “【 】”より作用域が狭く, “【 】”は “《 》”より作用域が狭いとする。
- (3) 話題についての詳述は青木 (2014b) を参照されたい。
- (4) この論理式では“有”が用いられているが、これは『論理哲学論考』(ウイトゲンシュタイン著, 野矢茂樹訳: 184) における記述をヒントとした。野矢は論理形式について次のような注釈を与えている。  
 「ある対象の論理形式とは、その対象がどのような事態のうちに現れうるか、その論理的可能性の形式のことである。たとえばある対象 a が赤い色をしていたとしよう。対象 a にとって赤いという色は外的性質であり、他の色をもつこともありえた。つまり、〈a は青い〉〈a は黄色い〉等の事態も可能である。このことを「対象 a は色という論理形式をもつ」と言う。……」  
 故に、以下の論理式において“有”を用いた場合には、以上の「論理形式」の概念を参考にして使用したとする。なお論理式についての詳しい記述は青木 (2014b) を見られたい。
- (5) 本稿では、不確定だと考えられる動作主や受け手を“ $\phi$ ” (ファイ) で表すことにする。一つの式の中で“ $\phi$ ”が既に用いられている場合は“ $\psi$ ” (プサイ) を用いることとする。
- (6) 副話題についての詳述は青木 (2014b) を参照されたい。
- (7) 原文にある“真宾语”を「真性目的語」と訳したのは、朱徳熙 (1982) の訳本である杉村, 木村 (1995: 68) の翻訳に従った。なお、朱徳熙 (1982: 56-57) によると、「真性目的語」とは、「准宾语」(仮性目的語

(本稿の注釈 8)を見られたい。)以外の通常の目的語のことを指示している。

(8) 原文にある“准宾语”を「仮性目的語」と訳したのは、朱德熙(1982)の訳本である杉村、木村(1995: 68)の翻訳に従った。なお、「仮性目的語」は、朱德熙(1982: 56)によると、以下の三つがある。(用例の下線部が仮性目的語である。)

① 時間量、動作量、或は程度を表す目的語

休息了一会儿 (しばらく休憩した)

醒了两回 (二度目が醒めた)

大了一点儿 (少し大きい)

② 動作行為の終点を表す場所目的語

飞昆明 (昆明に飛ぶ)

来北京 (北京に来る)

去学校 (学校に行く)

③ 存在、出現、或は消失を表す存現目的語

新到了一批货 (新しく一口の品物が届いた)

来了个客人 (一人お客が来た)

死了父亲 (父親が死んだ)

(9) 「粘着型動補構造」とは、朱德熙(1982: 125)の記述に基づくと、補語が動語の後に直接付加されている形式を指す。なお、原文の“粘合式述补结构”を「粘着型動補構造」と訳したのは、朱德熙(1982)の訳本である杉村、木村(1995: 144)の翻訳に従った。

#### 参考文献

青木萌 2014a. 「現代中国語における時相構造の「量化」現象」, 『人文研究第 183 集』。神奈川大学人文学会。

青木萌 2014b. 「現代中国語における副詞“在”の意味と論理」, 神奈川大学大学院博士論文。

青木萌 2016. 「朱德熙(1982)の粘着型動目構造と統語型動目構造について」, 『人文研究第 188 集』。神奈川大学人文学会。

ウイトゲンシュタイン著、野矢茂樹訳 2003. 『論理哲学論考』。東京：岩波文庫。

朱德熙著、杉村博文、木村英樹訳 1995. 『文法講義』。東京：白帝社。

龚千炎 1995. 《汉语的时相时制时态》。北京：商务印书馆。

朱德熙 1982. 《语法讲义》。北京：商务印书馆。

#### 用例出典

[小説]

海岩 2008. 《死于青春》。北京：作家出版社。

老舍 2008. 《老舍全集》(修订本)。北京：人民文学出版社。

[テレビドラマ]

孔笙、简川詠 2016. 《欢乐颂》。东阳正午阳光影视有限公司、山东影视制作有限公司。

林丛 2004. 《家有儿女第一部》。北京中视美星国际文化传媒有限公司。